

第64回景況アンケート調査 結果報告書

(令和6年10月28日作成)

足利商工会議所

足利市通3丁目2757
TEL0284-21-1354 Fax0284-21-6294

《令和 6年 7月～ 9月期》実績
《令和 6年10月～12月期》見通し

調査要領

1. 調査目的

本調査は、当所管内事業所の経済動向及び現状を把握し、今後の経営支援や関係機関への施策、要望等の参考に資することを目的とする。

2. 調査期間

令和6年9月6日(金)～令和6年10月23日(水)

3. 調査対象企業

足利商工会議所議員事業所、足利地区雇用協会事業所など市内主要企業209社
(うち回答企業数173社：回答率82.7%)

4. 回答企業数

製造業	64	社
繊維工業	14	社
建設業・設備工事業	23	社
卸売業・小売業	29	社
飲食業・サービス業	43	社
計	173	社

5. 景況指数DIについて

分析方法[景況動向指数(DI)による]

景況指数は、好況・不況の差を指数にしたものであり、基準指数が「0」で、上限はプラス100・マイナス100となり、プラスは景況の好転(増加)、マイナスは景況の悪化(減少)をあらわしている。

DIについては数値の水準のみならず、数値の変化がどういう方向を向いているかが重要になっている。

DI方式は、
$$\frac{3x - 3z}{3x + 4y + 3z} \times 100$$
により算出

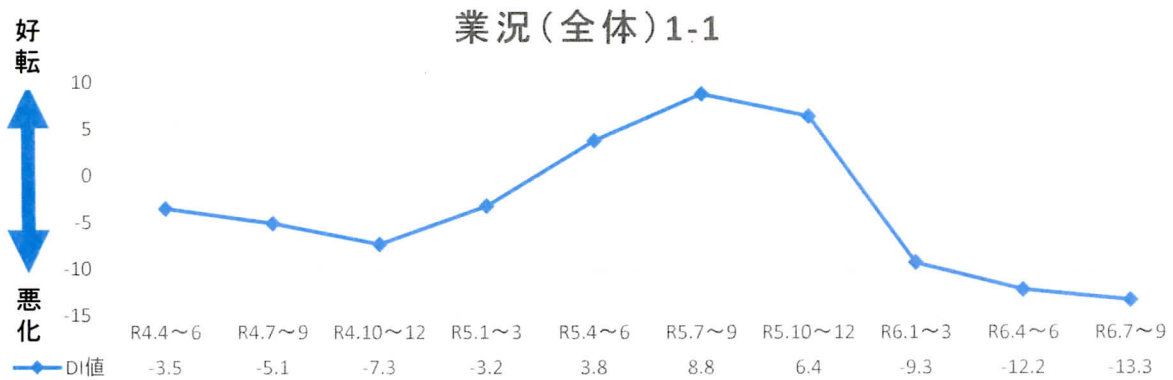
x：「好転」「増加」「上昇」等の回答企業数

y：「普通」「適正」の回答企業数

z：「悪化」「減少」「下落」等の回答企業数

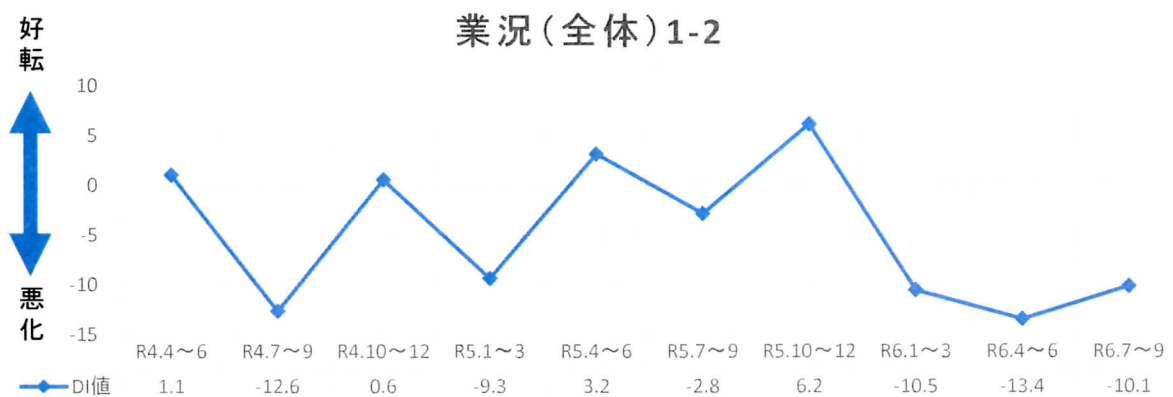
I. 当期（令和6年7月～9月）の景況について

1. 当期の業況は前年同期（1年前）に比べて



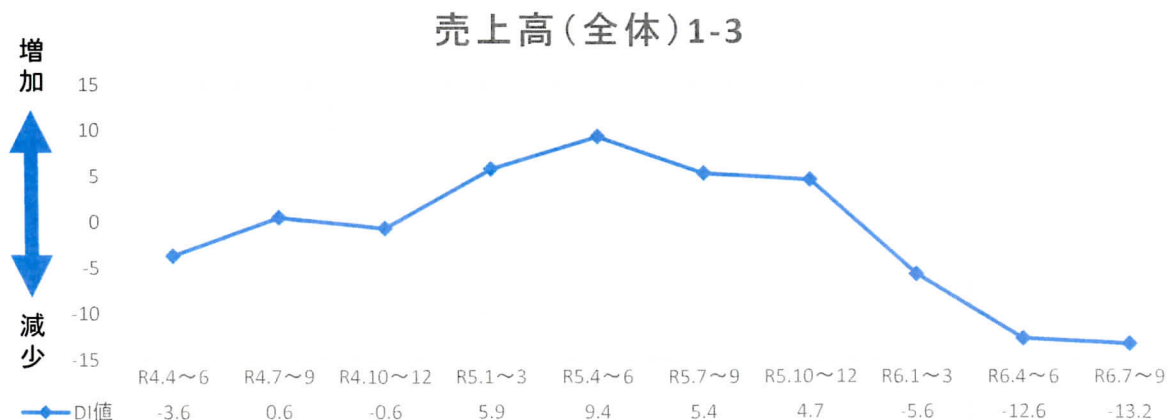
全体: 好転17%、不変50%、悪化33%
繊維工業: 好転21%、不変58%、悪化21%
卸・小売業: 好転7%、不変41%、悪化52%
製造業: 好転20%、不変39%、悪化41%
建設業・設備工事業: 好転9%、不変78%、悪化13%
サービス業: 好転23%、不変54%、悪化23%

2. 当期の業況は前期（前3ヵ月間）に比べて



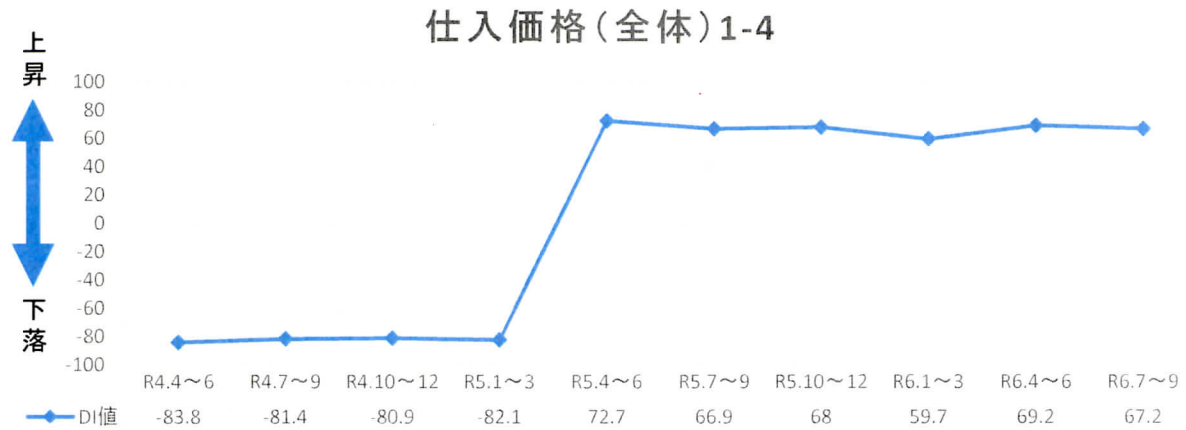
全体: 好転15%、不変58%、悪化27%
繊維工業: 好転7%、不変72%、悪化21%
製造業: 好転22%、不変48%、悪化30%
建設業・設備工事業: 好転9%、不変82%、悪化9%

3. 売上高は前年同期に比べて



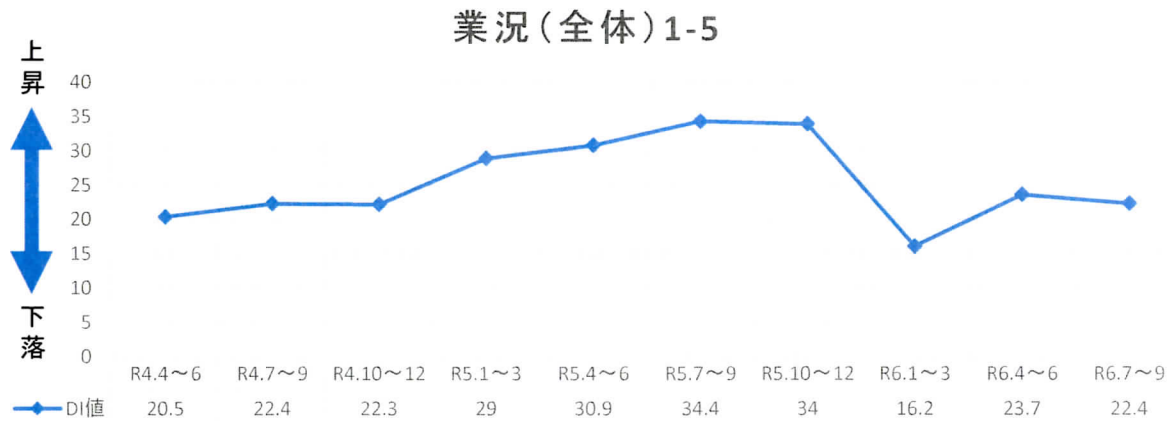
全体: 増加22%、不変41%、減少37%
繊維工業: 増加21%、不変58%、減少21%
卸・小売業: 増加7%、不変41%、減少52%
製造業: 増加22%、不変28%、減少50%
建設業・設備工事業: 増加30%、不変57%、減少13%
サービス業: 増加28%、不変46%、減少26%

4. 仕入価格（原材料）は前年同期に比べて



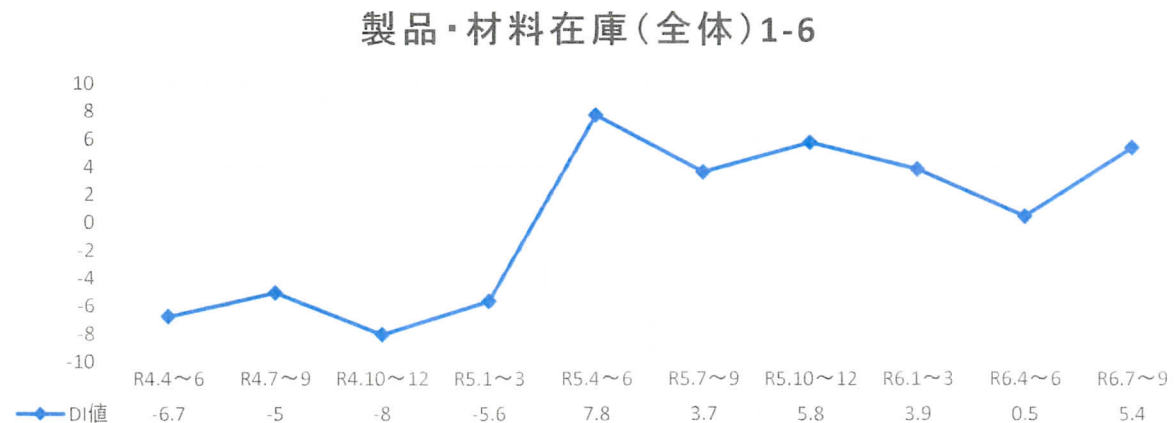
全体: 上昇74%、不変25%、下落1%
繊維工業: 上昇79%、不変21%、下落0%
卸・小売業: 上昇72%、不変24%、下落4%
製造業: 上昇73%、不変27%、下落0%
建設業・設備工事業: 上昇78%、不変22%、下落0%
サービス業: 上昇72%、不変26%、下落2%

5. 受注・販売価格は前年同期に比べて



全体: 上昇36%、不変55%、下落9%
繊維工業: 上昇21%、不変79%、下落0%
製造業: 上昇41%、不変50%、下落9%
建設業・設備工事業: 上昇39%、不変57%、下落4%

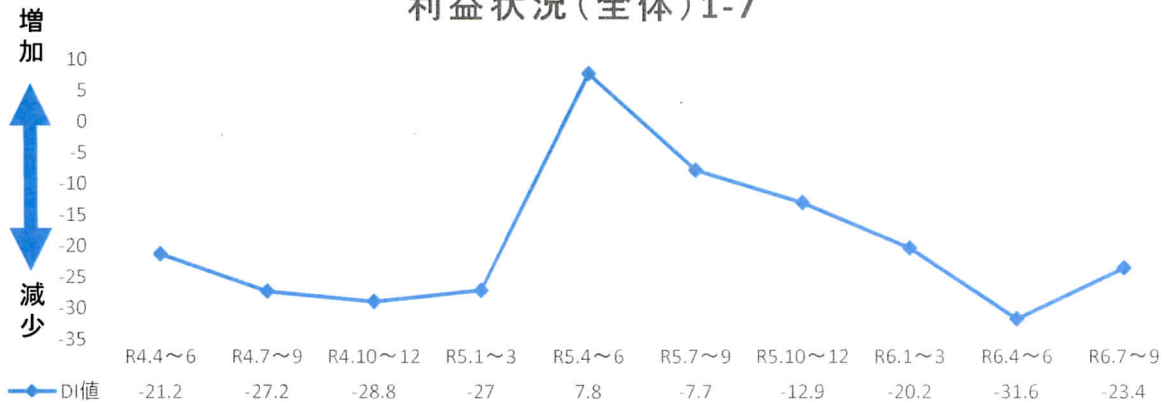
6. 当期の製品（材料）在庫は前年同期に比べて



全体: 過多13%、適正82%、不足5%
繊維工業: 過多7%、適正86%、不足7%
卸・小売業: 過多17%、適正72%、不足11%
製造業: 過多17%、適正81%、不足2%
建設業・設備工事業: 過多0%、適正91%、不足9%
サービス業: 過多12%、適正81%、不足7%

7. 利益状況は前年同期に比べて

利益状況(全体)1-7

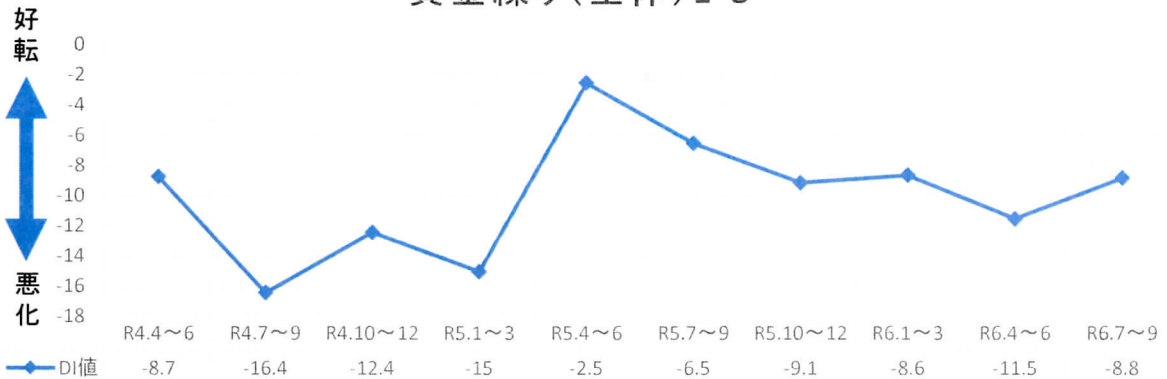


全体: 増加13%、不変47%、減少40%
 繊維工業: 増加7%、不変50%、減少43%
 卸・小売業: 増加2%、不変49%、減少49%

製造業: 増加20%、不変33%、減少47%
 建設業・設備工事業: 増加9%、不変61%、減少30%
 サービス業: 増加12%、不変60%、減少28%

8. 資金繰りは前年同期に比べて

資金繰り(全体)1-8



全体: 好転8%、不変73%、悪化19%
 繊維工業: 好転14%、不変57%、悪化29%

製造業: 好転12%、不変66%、悪化22%
 建設業・設備工事業: 好転0%、不変87%、悪化13%

9. 労働力は前年同期に比べて

労働力(全体)1-9

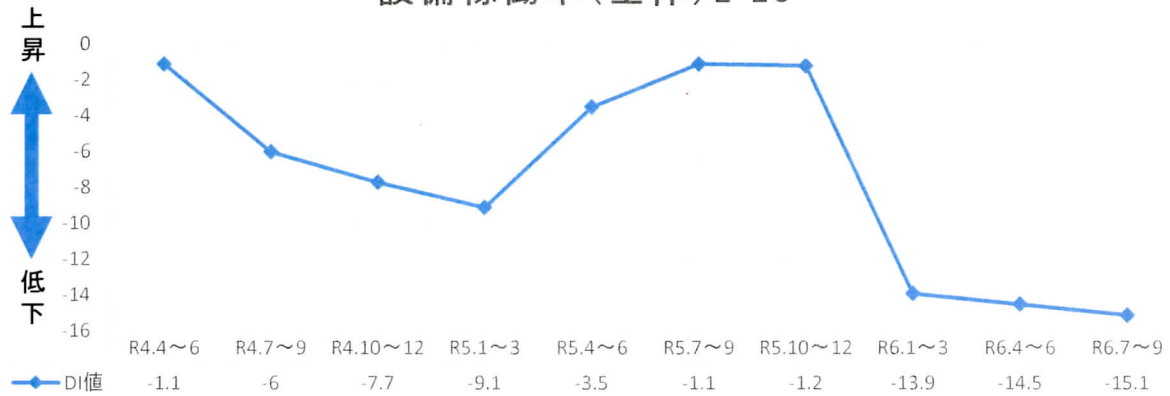


全体: 過剰6%、適正64%、不足30%
 繊維工業: 過剰0%、適正79%、不足21%

製造業: 過剰8%、適正69%、不足23%
 建設業・設備工事業: 過剰0%、適正48%、不足52%

10. 設備稼働率は前年同期に比べて

設備稼働率(全体) 1-10



全体: 上昇8%、不変66%、低下26%

繊維工業: 上昇14%、不変72%、低下14%

卸・小売業: 上昇0%、不変66%、低下34%

製造業: 上昇12%、不変44%、低下44%

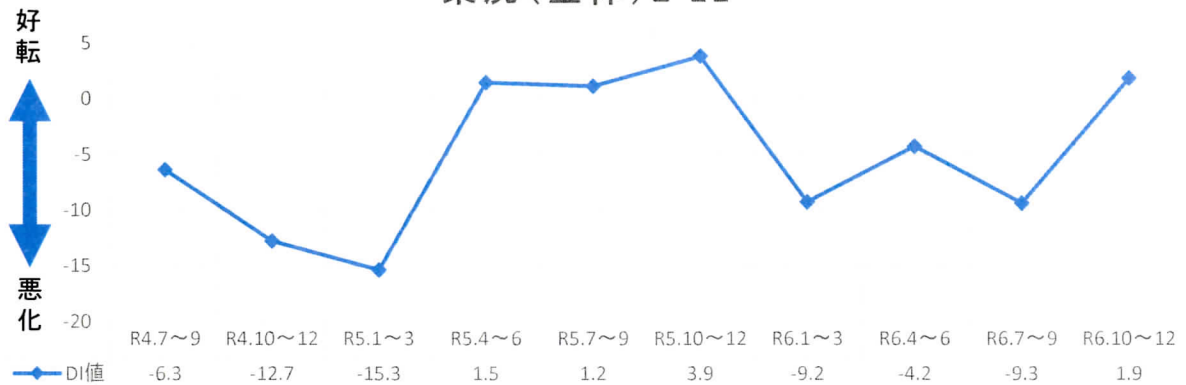
建設業・設備工事業: 上昇0%、不変100%、低下0%

サービス業: 上昇7%、不変81%、低下12%

II. 今後3ヵ月間(令和6年10月~12月)の推移の予想について

11. 業況は当期(7月~9月期)に比べて

業況(全体) 2-11



全体: 好転10%、不変69%、悪化21%

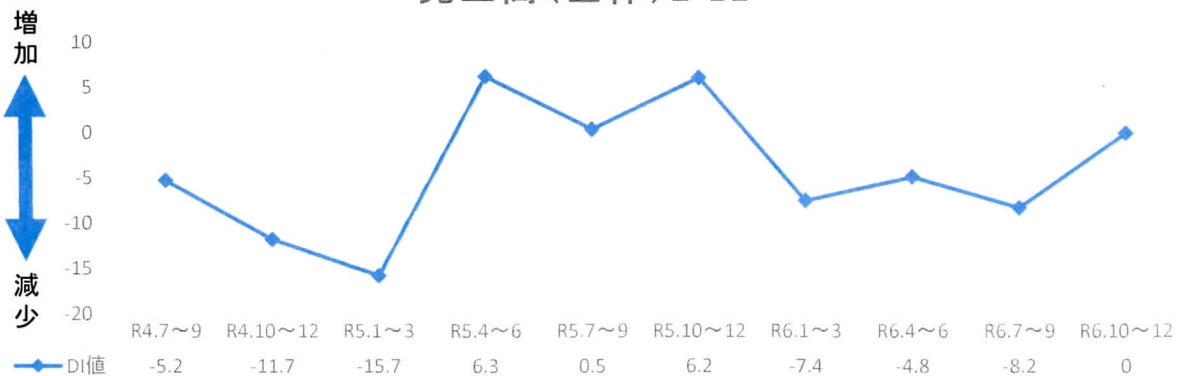
繊維工業: 好転8%、不変62%、悪化31%

製造業: 好転15%、不変63%、悪化21%

建設業・設備工事業: 好転5%、不変89%、悪化6%

12. 売上高は当期(7月~9月期)に比べて

売上高(全体) 2-12



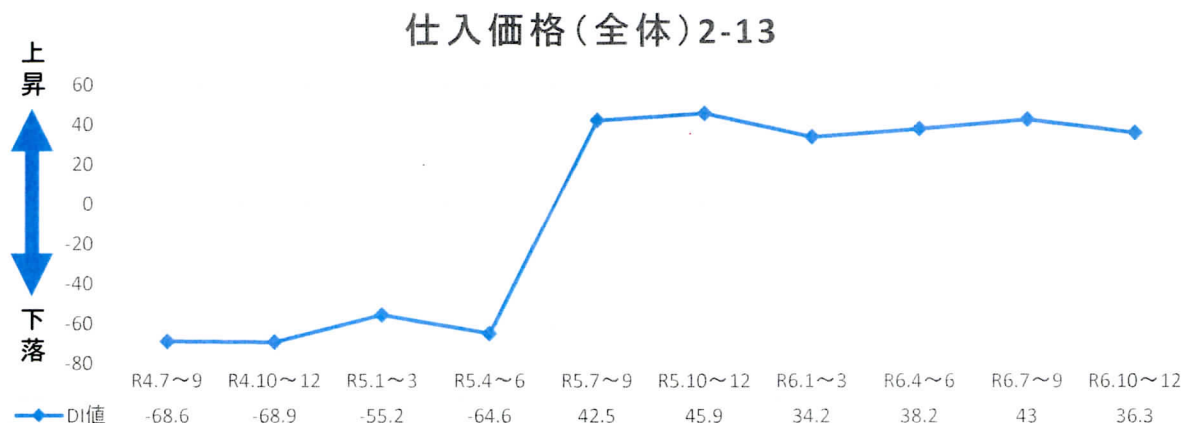
全体: 増加24%、不変52%、減少24%

繊維工業: 増加7%、不変64%、減少29%

製造業: 増加23%、不変47%、減少30%

建設業・設備工事業: 増加26%、不変61%、減少13%

13. 仕入価格（原材料）は当期（7月～9月期）に比べて



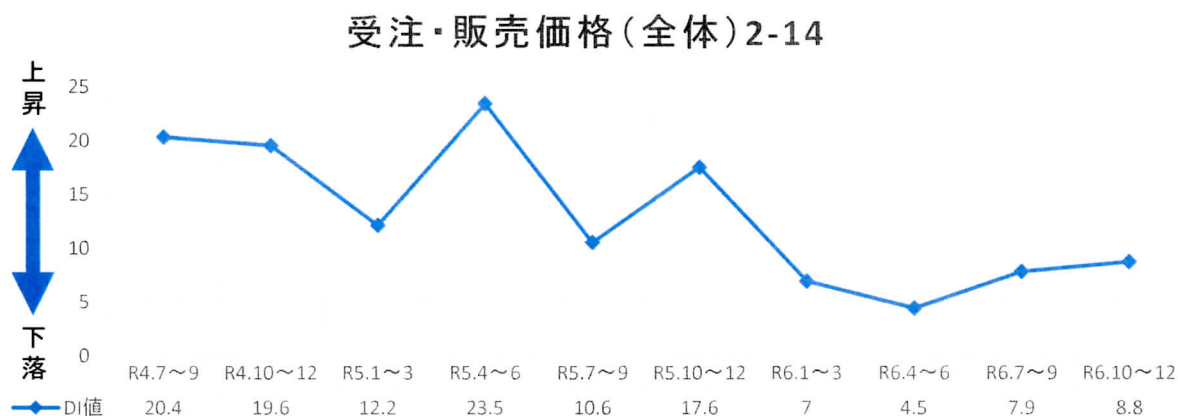
全体：上昇45%、不変53%、下落2%

繊維工業：上昇64%、不変36%、下落0%

製造業：上昇31%、不変66%、下落3%

建設業・設備工事業：上昇52%、不変48%、下落0%

14. 受注・販売価格は当期（7月～9月期）に比べて



全体：上昇20%、不変72%、下落8%

繊維工業：上昇29%、不変57%、下落14%

卸・小売業：上昇21%、不変66%、下落14%

製造業：上昇14%、不変78%、下落8%

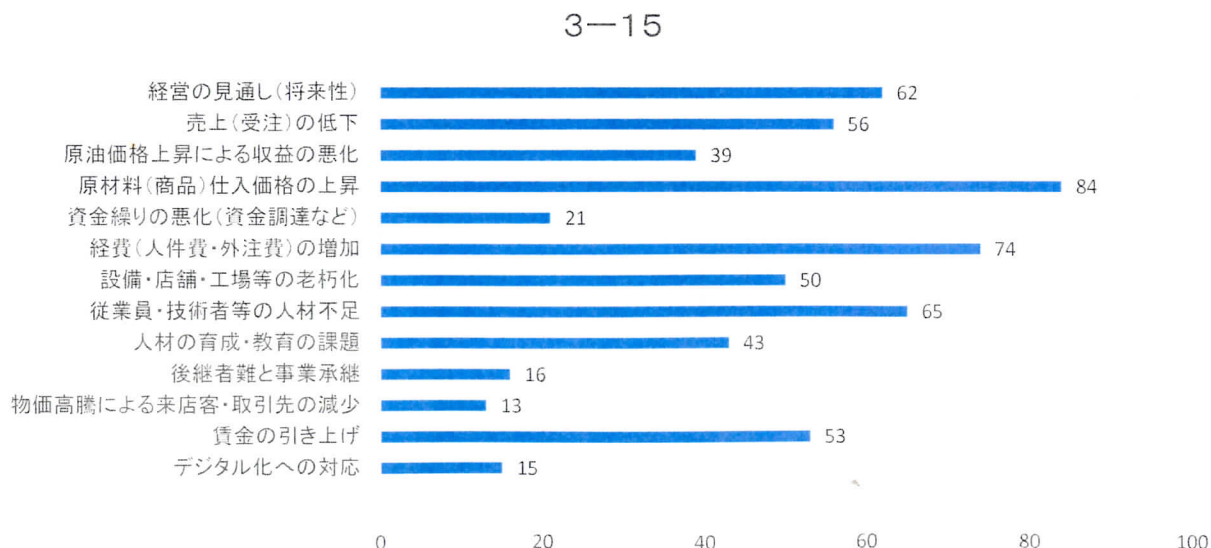
建設業・設備工事業：上昇30%、不変70%、下落0%

サービス業：上昇19%、不変72%、下落9%

III. 当期直面している経営上の問題点

15. 当期（7月～9月）直面している経営上の問題点について

※複数回答。上位回答を掲載



16. 県内最低賃金引き上げに対する影響について

・2024年10月より、栃木県内の最低賃金が954円から1,004円に引き上げられ、その影響について調査した。

全体では、「大きく影響を受ける」、「多少影響を受ける」との回答が合計で64ポイントに上り、企業への影響の大きさが伺えた。

特にサービス業、卸・小売業、製造業といったパートやアルバイト社員を多く抱える業種に影響が大きいことが伺える結果となった。

	製造業	繊維工業	建設業・設備工事業	卸・小売業	サービス業	全体
大きく受ける	20%	21%	4%	21%	23%	19%
多少受ける	47%	36%	48%	48%	40%	45%
影響なし	31%	36%	43%	31%	35%	34%
回答なし	2%	7%	4%	0%	2%	2%
	100%	100%	100%	100%	100%	100%

<概況>

【令和6年7月～9月期 実績】

- 全体の業況におけるDI指数は-13.3ポイントで、前年同期8.8ポイント(1年前)から比較し22.1ポイント減少。
 - 当期の業況-10.1ポイントは前期-13.4ポイント(前3ヶ月)と比較して3.3ポイントを戻すも厳しい状況が続く。
 - 売上高-13.2ポイントは前年同期5.4ポイント(1年前)から比較し18.6ポイント減少。
- 長引く構造不況の影響からか、全体的に厳しい結果となった。

【令和6年10月～12月期 見通し】

- 全体の業況におけるDI指数は1.9ポイント(前3ヵ月比+11.2ポイント)と4期振りにプラスに転じた。
- 特に卸・小売業、サービス業、建設業・設備工事業が明るい見通しであった。

【直面している経営の問題点】

- 少子高齢化の現状から、従業員・技術者等の採用に苦慮しているほか、今般の最低賃金の引き上げ等による固定費の増加が負担になっている様子であった。

【業況に関するコメント】

- ・受注が増加しても、各協力工場の労働力不足により、受注を取りこぼす事案が発生している。(卸・小売業)
- ・2年前に結構な額のベースアップを行ったが、最近の賃金の上がり幅が大きく、すぐに追い付かれた。今回はどこまであげるべきか悩んでいる。(製造業)
- ・中橋架け替え、通行止めによる影響を感じる(サービス業)
- ・光熱費の高騰が異常で対応が難しい。(製造業)
- ・新規採用者が仕事を覚えたころに辞めてしまう(製造業)
- ・外で働く人や、来店客など、猛暑の為、苦勞している。(サービス業)
- ・8月後半以降、輸出先である米国の景気減速感が強まっている。(製造業)
- ・金利利上げの影響で、ゼロコロナの借入返金に影響が生じないか不安。(サービス業)